

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 12 月 26 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470203906		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	グループホーム五日市		
所在地	広島市佐伯区五日市町下河内188-6 (電話) 082-927-2511		
自己評価作成日	平成28年11月30日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kanji=true&JigyosyoCd=3470203906-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年12月15日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者がその人らしく、安心して笑顔で毎日を過ごすことが出来るように支援している。 ご家族が参加できる多くの行事を取り組んでおり、入居者様とご家族の絆を大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

日々の介護において、「利用者を知る」ことでその人らしく安心して暮らす事が出来る、という考えの下、申し送りノートで情報の共有が出来るようにしている。ご家族の協力を得ながら、年2回は遠出の外出を企画し、原則、全員参加で実施している。また、同一敷地内に病院があり、医療との連携が確立されている事で、緊急時や、治療の必要性について、家族の要望を確認しながら、早急に対応が出来る態勢がある。
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所独自の理念を掲げ、日々の日常生活又、行事、レクリエーションにおいて、実践につなげている。	母体の医療法人の理念があり、その実践に向けて事業所での理念を定めている。ユニット内に張り出して、常に確認できるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年に数回、地域と交流を図っている。	事業所はビルの5階にあることから、日常的な交流は難しいため、民生委員を介して行事等の情報を交換し、可能な範囲で参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が地域の方々へ向け、認知症についての勉強会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	基本、2ヶ月に1回のペースにて会議を行い、現状報告、又、今後の検討課題を取り上げている。	2ヶ月に1回開催している。現状報告をし、ミニ勉強会も時々同時開催をしている。年2回は家族会も合わせて行い、家族の参加が多い。	会議への主な出席者は民生委員と家族となっている。関わりのある地域の方々に働きかけて、幅広く出席を得る事が望ましい。現状報告にとどまることなく、地域との意見交換の場となる事で、更にサービスの質向上が期待できると思われます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加等検討しているが、まだ実践はできていない。	地域包括支援センターとは、必要に応じて連絡を取り合う事としている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	重要事項説明書にも記載しており、身体拘束はもとより、言葉による拘束をしないよう、常に考慮して取り組んでいる。家族への説明・了承を得て、玄関は夜間のみ必要に応じて施錠することがある。	年に一回は、事業所内で外部講師による研修を実施している。特に言葉による拘束をしないよう、日ごろから注意喚起をしている。生命に影響を及ぼすような事態が考えられる時は、ご家族に了解を得て、適切な対応を実施する事もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング、勉強会にて職員全員に再確認させ、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を開き、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず利用前に重要事項説明書を説明し、理解、納得の上、利用されている。又、可能な方は何度か遊びに来られ、様子を知って頂いて、利用を始めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の意見交換や、家族会等で、家族のみで意見交換をして頂き、その後、管理者等に検討事項を伝えて対応している。又、面会時にも意見投函箱を利用して頂いている。	意見が出易いように、家族会のみで話し合いをしていただいたり、面会時に関わりのある職員が、話を聞いたりするように工夫をしている。意見箱の設置もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	基本、月1回のミーティングを行い、職員との意見交換を行っている。また、必要であれば、送りノートに記載し、ミーティング以外でも意見や案を聞き出し、検討している。	月に一回のミーティングにおいて、職員が意見を出せるようにしている。直近の例として衛生面を考慮し、布団乾燥機が必要との意見が出て、直ぐに導入に至った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個々のやりがい、向上心が持てる様、整備し努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の参加等行っているが、まだ々回数は少ない為、更に研修を受ける機会の確保に努めたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域内のグループホームとのネットワークを作り、交換会に参加しており、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用される事前に、家族と共に何度か面談し、ゆっくりと話を傾聴し、信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	No. 15と同様に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用に当たって、事前に本人と家族様に要望等を確認し、まずは2週間の暫定プランを策定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事を取り、楽しみを味わう。又、行事、レクリエーションを通してお互いが楽しく過ごせる関係を工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日常的に話し合う機会を持ち、家族にも積極的に行事参加を促し、一緒に楽しい時間を、少しでも多く過ごせるよう努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	グループホーム内だけの生活ではなく、知人との面会、又、なじみの場所へ個別外出をしている。（家族の協力のもと）	友人の面会や電話の取次ぎなどについての支援を継続している。ケーキ屋さんに行きたいという希望があり、職員と一緒に出かけた例もある。行事や特別の日には、職員の配置も増やすなどの工夫をしている。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	常に職員が会話の架け橋となり、コミュニケーションの援助をしている。又、集団レクリエーションや行事を行い、孤立を防止している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用後も本人との面会へ行ったり、家族へ電話をしたり、関係を保っている。グループホームで撮った写真等を記念として渡し、グループホームの生活を思い出してもらうように工夫している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	必ず、ケアプラン策定には、本人、家族の意向を聴き、対応している。	個別の思いを聴き取れるように、職員は担当制としている。担当職員は信頼関係の構築につとめ、本人が意向を出しやすくなるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や、今まで利用されていたサービスの職員から、より多くの情報を収集し、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々のカルテに体調の変化を記入している。様子の変化を確認している。又、個人に合わせてバイタルサイン測定を行い、チェック表に記入している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員を中心に、本人、家族、医師等の意見を聞き、3ヶ月ごとにモニタリングし、6ヶ月ごとにプランを作成している。	本人、家族と担当者、介護支援専門員の参加で、担当者会議を開催している。担当医、看護師、リハビリ担当者については、毎回の参加は難しい為、照会表で意見の聞きとりを実施し、プランに反映している。3ヶ月ごとにモニタリングをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の状況を個人カルテ、バイタルサインを検温表、ケアの実践はプラン実施表に記入し、職員間で情報共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人、家族の状況に応じ、その都度、相談、検討を行い、柔軟に対応する努力をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個別外出を行うことで、地域のスーパー、飲食店などを利用し、楽しく過ごす事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の納得の上、隣接の病院で受診をしている。その他の病院への受診が必要であれば、家族の協力のもとで受診している。	本人・家族の了解のもと、隣接の病院と医療連携をとり、週一回の訪問看護と必要時の受診をしている。他の病院の受診希望については、家族の協力をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設施設の外来看護師が、週に1回グループホームにて「健康管理」を行い、報告、相談を行っている。必要であれば臨時に外来受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設病院の相談員と情報交換を行っている。又、常に関係作りに努め、適切な対応が出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用時に、重要事項説明書の説明と同時に重度化の指針を説明している。又、定期的な家族会等でも、重度化した場合や終末期についての話し合いをしている。	事業所では、重度化や終末期の対応は原則としてしない方針であり、同一法人の病院への入院及び必要な対応を話し合いのもとで実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し、対応が出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の病院、施設との合同火災訓練があり、その中に参加している。その経験を基にグループホーム内での話し合い、独自のマニュアルを策定している。又、夜間を想定した訓練を行い、地域の協力体制も築いている。	同一建物の病院と近隣の事業所で、防災協定を締結しており、合同で年1回、グループホームとしての避難訓練等を実施している。また、地域の避難場所としての役割もあり、食料等の備蓄をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格の尊重、プライバシーを損なわない声掛けを行う努力をしている。	特に排泄介助、入浴介助については、個別に言葉をかけている。利用者の名前の呼び方にも、個々の希望を取り入れ、落ち着いて生活できるように、一人ひとりに合わせた支援を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	(利用者の希望) = (利用者本位) を念頭にかかげる為、ミーティング等で職員本位にならないよう話し合い、日常生活支援で注意を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の決まった日程があるが、本人の思いや気分を尊重し、その人のペースにあわせ、日程を変更したり等対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	特に、外出レクリエーションや行事がある日は、衣服を選んで頂いたり、オシャレを楽しんでもらえるよう支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の好みの食料を入れた行事食や誕生日食を考えたりして、出来る範囲での工夫をしている。本人の負担にならないように、出来る限りの調理の手伝い・後片付けを行ってもらい、食事中には作ってもらった方へのねぎらいの声かけをしている。	行事食や誕生日食には、本人の好みがあればメニューに取り入れて、全員で食事を楽しんでいる。11月は焼肉の希望があり、誕生日会に実施した。後片付けや準備については、可能な利用者には職員と一緒にしてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養課が、カロリー計算したメニューで食事を提供している。又、嚥下状態に合わせて、ひと口大にカットしたり、トロミを付けたりして、安全に摂取出来るよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアと、就寝時には義歯洗浄剤にて洗浄している。必要に応じて、歯科往診にかかっており、定期的に口腔状態を確認して頂き、口腔ケアの指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	必要な方に対し排尿パターンを記録し、失禁対策に取り組んでいる。又、本人の負担にならない程度で、トイレ指導を行い、排泄の自立支援に努めている。	排泄記録表を基に、個別の排泄時間を検討、把握する事で、オムツから紙パンツへ移行した人もいる。2部屋に1箇所のトイレがあることで、ゆっくりと座っていただく事が可能であり、自立排便につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食べ物、水分摂取にも注意し、医師と相談しながら下剤を使用するなど、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調、タイミングなど、個々に応じた状態に対応し、入浴を楽しんで頂けるよう支援を行っている。	週2回の入浴を基本としており、本人の体調や気分を確認しながら実施している。シャンプーやリンスは一人ひとり好みのものを使用出来るよう支援している。1人での介助が困難と判断した場合は、出入りの介助を2人体制で実施する事もあり、安全に配慮している。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	個人、又その日の体調に合わせ、日 中臥床時間を設け、又、日中廊下、ソ ファーにて休息出来るよう、環境を整 備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変化 の確認に努めている。	医師の指導、薬剤師から出される薬の 作用、副作用を記載した用紙をしっ かり確認し、対応するよう努めてい る。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている。	個々に役割を持って頂き、利用者同 士助け合い、活力ある生活を送って 頂くように努めている。又、行事やレ クリエーションを通して外出する等、 気分転換にも努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援してい る。	個々の身体レベルの低下がみられる 等、遠出は困難になっているが、外 出レク以外にも、定期的に病院の売 店へ行ったり、散歩へ行くなどの支 援を行っている。	年2回は、全員で遠出が出来るよう に企画している。日常的には、ビル 内の他の事業所や近くの売店に買 い物に行くなどの支援を実施してい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとり の希望や力に応じて、お金を所持 したり使えるように支援している。	外出時にお金を持って行き、買い 物するなど、個々に応じた支援を行 っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙のやり取りの希望があれば、その都度、対応できるようにしている。又、利用者全員に年賀ハガキを書いて頂き、元気な姿を報告できるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、氏名を貼り出しており、居室の誤解を予防している。又、季節に合わせて飾りを作ったり、居心地の良い環境作りに努力している。	事務所はビルの5階にあり、明るく風の通りもよい環境となっている。居室入り口には分かり易いように大きく氏名を張り出し、自室の認識がしやすいように工夫している。廊下の側面にはくつろげるように、ソファが置いてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室前の廊下で、利用者同士や来苑された家族の方が、ゆっくり談話して頂く場所として、又一人で佇むことが出来るよう、ソファ・テーブルを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が今まで使用していた物等を持ち込み、安心感を持てる環境を作っている。	全室畳で、その上にベットを置いている。家族の宿泊についても、そのまま布団を敷くことで可能としている。大切な物の持ち込みも出来て、自室としての環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	スロープ、手すりを設置し、出来るだけ自立した生活を送れるように、環境整備をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム五日市

作成日 平成29年1月31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の出席者が限られている	更に幅広い職種の方の出席を得て意見交換を行う	地域の消防隊員の方などの出席を働きかける	6ヶ月以内
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。